

2-3

「ウイテマテ」体得のための教育ミュージックビデオの制作

大森 玲弥（株式会社 岡崎竜城スイミングクラブ）

【背景】

日本における子どもの水難事故は依然として発生しており、特に河川・海洋等における事故では発見や救助までに時間を要し、重篤な結果につながるものが少なくない。水難時の基本行動として、水難学会が提唱する「ういてまて（浮いて救助を待つ）」は重要な生存行動である。しかし、当法人が調査会社を通じて行なった全国の小学生家庭を対象に実施した調査では、小学生の53%が「浮いて待て（ウイテマテ）」を知らないことが明らかとなった。また、実際の水難事故の多くが衣服着用時に発生するにもかかわらず、「着衣泳」の経験や認知が十分ではない実態も示された。さらに、学校プールの減少や水泳授業機会の地域差拡大により、水難教育へ接触する機会自体が縮小している現状がある。

【目的】

本研究・実践の目的は、子どもおよび保護者が「ウイテマテ」の行動原理を直感的かつ反復的に学び、非常時に身体反応として実践できる状態を目指す教育ミュージックビデオ（以下、教育MV）を制作することである。従来の知識伝達型教育ではなく、音楽・映像・身体動作を通じた記憶定着により、水難時の適切な判断と行動を促す新たな水難教育モデルの構築を試みる。

【方法】

教育MVでは、子どもが覚えやすい楽曲・振付を活用しながら、①浮いて待つ姿勢、②衣服着用時の身体操作、③無理に泳がず体力を温存する判断、④救助を待つ行動を、コンテンツ内に組み込む。対象は、主に小学生とその保護者とし、家庭・学校・地域イベント等で反復視聴されることを想定している。また、本プロジェクトは単なる映像制作ではなく、教育機関等への無償提供を前提とした社会啓発型施策として設計している。制作資金については、2026年5月25日から6月30日までクラウドファンディングを実施し、社会参加型で普及を目指している。

【期待される成果】

水難教育において、実技による着衣泳・水難訓練が理想であることに異論はない。一方で、環境・地域差等により実技機会を得られない層も存在する。本教育MVは、その不足を完全に代替するものではなく、水難教育への「入口」として機能し、関心喚起と基礎知識の普及を担うことを目指す。特に、「知識として知っている」状態ではなく、「危機時に身体が動く」状態への移行可能性を探る点に意義がある。

【今後の展望】

本学会では、現在制作中である教育MVのティーザー映像を初公開予定である。今後は、完成版を教育機関・自治体等へ提供するとともに、水難事故多発地域での活用を進め、「ウイテマテ」および着衣泳の社会的定着を目指す。音楽と映像を媒介とした水難教育の可能性について、多分野との連携を視野に検討を進めたい。